「我が懐かしき歌」補遺 30　　2/24（木）・

小指といえば思い出すのは島倉千代子さんの「恋しているんだもん」2009 年 10 月リリース。

『恋しているんだもん』
作詞：西沢　爽　作曲：市川昭介

小指と小指　からませて
あなたと見ていた　星の夜
地球もちっちゃな　星だけど
幸福いっぱい　空いっぱい
だって　だって　私は
恋しているんだもん

仲よしゲンカ　して通る
いつもは楽しい　散歩道
ごめんなさいねと　言えないで
涙がいっぱい　胸いっぱい
だって　だって　あなたに
恋しているんだもん

デイトのたびに　ひとつずつ
思っていたこと　思うこと
素敵な言葉の　寄せ書も
ノートにいっぱい　夢いっぱい
だって　だって　ふたりは
恋しているんだもん

「我が懐かしき歌」補遺 29　　2/21（木）・

「小指の思い出」の大ヒットで伊東ゆかりは 1967 年の「第 9 回日本レコード大賞」歌唱賞を受賞し、同年大晦日の「第 18 回 NHK 紅白歌合戦」にも選ばれました。

『小指の思い出 』
作詞：有馬三恵子 作曲：鈴木淳

あなたが噛んだ 小指が痛い
きのうの夜の 小指が痛い
そっとくちびる 押しあてて
あなたのことを しのんでみるの
私をどうぞ ひとりにしてね
きのうの夜の 小指が痛い

あなたが噛んだ 小指がもえる
ひとりでいると 小指がもえる
そんな秘密を 知ったのは
あなたのせいよ いけない人ね
そのくせすぐに 逢いたくなるの
ひとりでいると 小指がもえる

あなたが噛んだ 小指が好きよ
かくしていたい 小指が好きよ
誰でもいいの 何もかも
私の恋を おしえてみたい
ほんとにだけど 言えないものね
かくしていたい 小指が好きよ

「我が懐かしき歌」補遺 28　　2/13（水）・

木曾節は歴史が古く、木曽地域に近世から伝わる民謡。木曽の材木を河川に流して運ぶ「川流し」をモチーフに、木曽川や周囲の山々と人情を歌い上げています。「中乗りさん」は、材木を筏に組んで木曽川を下り運搬する人たちで、先頭を「舳乗り」（へのり）、後ろを「艫乗り」（とものり）、真ん中を「中乗り」といったということです。「木曽の御岳さん」は最高峰の御嶽山です。
大正から昭和戦前にかけて福島町の町長を務めた伊東淳（いとう すなお、1876 年 - 1942 年）の尽力で広まったといわれますが、昭和時代に入ると、ラジオやレコード等の新メディアで一般に普及するに至り、全国的な知名度を得ました。木曽福島駅前には功績を称えて伊東の銅像が立っているそうです。ザ・ピーナッツも歌っていました。(参考: 世界の民謡・童話)

『木曽節』
歌詞の一例

木曽のナー　中乗りさん
木曽の御岳（おんたけ）さんは
ナンジャラホーイ（ナンチャラホーイ）
夏でも寒い　ヨイヨイヨイ

ハー　ヨイヨイヨイノ　ヨイヨイヨイ

袷ょ（あわしょ）ナー　中乗りさん
袷ょ　やりたや　ナンジャラホーイ
足袋もそえて　ヨイヨイヨイ

ハー　ヨイヨイヨイノ　ヨイヨイヨイ

「我が懐かしき歌」補遺 27　2/7（木）・

「知りたくないの」は 1953 年に発表されたカントリーワルツ。アメリカで大ヒットし、エルヴィス・プレスリー　ほか、多くの歌手がカバーしたそうです。英語の歌詞は、歌手がそれぞれにアレンジして歌っているため、いくつものヴァリエーションがありますが、ここではペリー・コモ版に拠っています。日本では、昭和 40 年（1965）、『知りたくないの』というタイトルで日本語版のレコードが発売されました。日本語詞はなかにし礼、歌ったのは菅原洋一で、ともに当時新進の作詞家、歌手でした。（参考: 二木紘三のうた物語）

『知りたくないの』
作詞・作曲：Howard Barnes and Don Robertson
日本語詞：なかにし礼、唄：菅原洋一

あなたの過去など　知りたくないの
済んでしまったことは
仕方ないじゃないの
あの人のことは　忘れてほしい
たとえこの私が　聞いても言わないで

あなたの愛が　真実（まこと）なら
ただそれだけで　うれしいの
ああ　愛しているから
知りたくないの
早く昔の恋を　忘れてほしいの

原詞
"I really don't want to know"

How many arms have held you
And hated to let you go
How many, how many I wonder
But I really don't want to know

How many lips have kissed you
And set your soul aglow
How many, how many I wonder
But I really don't want to know

So always make me wonder
Always make me guess
And even if I ask you
Darling, don't confess

Just let it remain your secret
But darling, I love you so
No wonder, no wonder, I wonder
Though I really don't want to know
Though I really don't want to know

「我が懐かしき歌」補遺 26　　2/4（月）

「若い力」（わかいちから）は、国民歌の一種で、国民体育大会の大会歌として制作されたもの。1947 年の第 2 回国民体育大会（石川県）の時、国民体育大会のマークと共に作られた。全国の学校で運動会の BGM に使用されているところも多い。(参考　Wikipedia)

『若い力』
作詞:　佐伯孝夫　作曲　：　高田信一

１．若い力と感激に
燃えよ若人胸を張れ
歓喜あふれるユニホーム
肩にひとひら花が散る
花も輝け希望に満ちて
競え青春　強きもの

２．薫る英気と純情に
瞳明るいスポーツマン
僕の喜び君のもの
上がる凱歌に虹がたつ
情け身にしむ熱こそ命
競え青春　強きもの

「我が懐かしき歌」補遺 25　　1/30（水）

「若者たち　ー空にまた陽が昇るとき」は、ザ・ブロードサイド・フォーが 1966 年に発表したフォークソングで、テレビドラマ『若者たち』の主題歌として制作されました。後に、1970 年代になって小学校・中学校向け音楽教科書やソングブックなどに掲載され、学校音楽教育で学ぶポピュラーソングとして定着しました。なお、ザ・ブロードサイド・フォーは、黒澤明監督の息子黒澤久雄が中心になって結成されたフォークグループということです。2014 年にフジテレビが新たに制作した前述のテレビドラマのリメイク作『若者たち 2014』でも主題歌として使用され、2014 年版では森山直太朗が歌っています。坂本九も歌っていましたね。(参考: Wikipedia)

『若者たち』
作詞：藤田敏雄　作・編曲：佐藤　勝

君の行く道は　果てしなく遠い
だのになぜ　歯をくいしばり
君は行くのか
そんなにしてまで
君のあの人は　今はもういない
だのになぜ　なにを探して
君は行くのか
あてもないのに
君の行く道は　希望へと続く
空にまた　陽がのぼるとき
若者はまた
歩きはじめる

「我が懐かしき歌」補遺 24　　1/24（木）・

「バラが咲いた」といえばマイク真木、マイク真木といえば「バラが咲いた」ですネ。 本曲は浜口庫之助が、サン＝テグジュペリの『星の王子さま』の薔薇をテーマにした一節からモチーフを得て作詞・作曲したと言われています。本曲のヒットにより、眞木は 1966 年の『第 17 回 NHK 紅白歌合

戦』に初出場し、リュートを手に歌唱しました。また、NHK の『みんなのうた』『歌のメリーゴーラウンド』『歌はともだち』などでも歌われました。本曲のヒットが契機となってフォークソングブームが広がっていくことになったということです。なお、2006 年には、「バラが咲いた」のアンサーソングとして、「ありがとう～こころのバラ～」が発表され、『みんなのうた』で放送されたました。これはマイク真木作曲で、作詞は妻の Kana(和田加奈子はマイク真木の 1 回目と 3 回目の結婚の妻)です。

『バラが咲いた』
作詞：浜口庫之助　作曲：浜口庫之助

バラが咲いた　バラが咲いた　まっかなバラが
淋しかった僕の庭に　バラが咲いた
たったひとつ咲いたバラ　小さなバラで
淋しかった僕の庭が　明るくなった
バラよバラよ　小さなバラ
いつまで　もそこに咲いててておくれ

バラが咲いた　バラが咲いた　真っ赤なバラで
淋しかった僕の庭が　明るくなった
バラが散った　バラが散った　いつの間にか
ぼくの庭は前のように　淋しくなった
ぼくの庭のバラは散ってしまったけれど
淋しかったぼくの心に　バラが咲いた
バラよバラよ　心のバラ
いつまでも　ここで咲いててておくれ

バラが咲いた　バラが咲いた　ぼくの心に
いつまでも散らない　まっかなバラが

「我が懐かしき歌」補遺 23　　1/18（金）・

「砂に消えた涙」（Un buco nella sabbia）は、1964 年に発表された、イタリアの歌手ミーナの楽曲で、作曲はピエロ・ソフィッチ、作詞はアルベルト・テスタ。日本では、漣(さざなみ)健児が弘田三枝子が歌うことを想定して日本語詞を作り、ミーナ本人も日本語詞でも歌っています。イタリア語の原題は、「砂に掘った穴」といった意味だそうです。

『砂に消えた涙 』
作詞：Testa Albert　作曲：Soffici Piero
日本語歌詞:　漣　健児

青い月の光を浴びながら
私は砂の中に
愛の形見をみんなうずめて
泣いたの　ひとりっきりで
あーあ-あ-
あなたが私にくれた
愛の手紙、恋の日記
それのひとつひとつのものが
いつわりのプレゼント

白い波の打ちよせる海辺で
私は砂の中に
恋の想い出みんなうずめて
泣いたの　ひとりっきりで
あ-あ-あ-
あなたが私にくれた
甘い言葉　あついキッス
それのひとつひとつのものが
いつわりのプレゼント

青い月の光を浴びながら
私は砂の中に
愛の形見をみんなうずめて
泣いたの　ひとりっきりで

.

「我が懐かしき歌」補遺 22　　1/8（火）

「折ればよかった」の楽譜の初版発行は大正 13 年 2 月９日で、関東大震災から間もない頃です。原曲は Johann Ludwig Uhland (1787-1862)作詞、Johannes Brahms (1833-1897)作曲 “Sonntag”だそうです。「山かげの小百合」が原詞では das tausendschöne Jungfräulein だったと知って「へー」と思いましたが、高野辰之の詞も奥ゆかしくていいと思います。YouTube を見たら藤原義江さんが歌っておられました。藤原義江は若い方はご存知ないと思いますが。(参考: 愛唱会きらくジャーナル ブログ)

『折ればよかった』
作曲 ブラームス
日本語歌詞 高野辰之

1.折らずに置いて来た山かげの小百合
人が見つけたら手を出すだろう
風がなぶったら露こぼそうもの
折ればよかった遠慮がすぎた

2.ゆうべも夢に見た山かげの小百合
星が訪ねたら宿貸すだろう
虫がすがったらうなづこうものを
折ればよかった遠慮がすぎた

"Sonntag"
Text: Johann Ludwig Uhland

das tausendschöne Jungfräulein、
das tausendschöne Herzelein,
wollte Gott,wollte Gott,
ich wär'heute bei ihr,

wollte Gott,wollte Gott,
ich wär'heute bei ihr!